

## 第5回総合戦略推進アドバイザー懇談会議事録

日時	令和元年9月5日(木) 10時00分～11時30分	
場所	生涯学習センター 203号室	
委員	出席者 (敬称略)	<b>【産】</b> (株)フジイ代表取締役 金森 薫 <b>【官】</b> 岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター長 原 永子 <b>【学】</b> 中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授 杉山 祐子 <b>【金】</b> 東濃信用金庫美濃加茂支店長 渡辺 洋一 <b>【労】</b> ハローワーク美濃加茂所長 山下 保
事務局	企画課 課長:斎木 係長:井戸 山口	
その他	インターンシップ学生 3名	

### 1 開会

### 2 あいさつ

### 3 平成30年度 地方創生推進交付金事業の評価について(資料1を説明)

#### 【アドバイザーからの意見】

##### (カミーノ推進事業)

- ・リオラはよく利用されている印象がある。窓口を広く市民の方に知ってもらえている。それが、2年目、3年目の成果につながっていくのではないかと。
- ・男性の職員でもリオラで相談を行えるかを検証する必要がある。リオラの移転にともなう場所の変化による影響について今後慎重に見定めていかなければならない。それに関しては、ハローワークとして連携していきたい。
- ・子供を預けて働く母親の目的いま一つ見えてこない。子供、特に未満児は、順調にいかないことが多い。一方で、納期までに仕上げなければならない仕事の期限がある。そのバランスを実現しなければならない。それを実現する覚悟を持たせ、働く目的をスタート時にはっきりさせなければならない。
- ・何のために働くかを家族としっかり話し合うことが必要である。家族の協力。
- ・夏休み期間に、小学生の中学年を対象に職場見学を行い、お母さんが働くことへの理解を持ってもらう取組みをしている。
- ・県の女性活躍支援センターと同様に、リオラにも経営者の立場になって考えるプログラムがある。時間はかかるかもしれないが、そのプログラムが、働きたい女性の働く姿勢の意識づけにつながっている。

##### (姫 Biz 戦略事業)

- ・後継者や内容そのものの問題によって事業者数が減少し衰退になりかねないため、小さい規模でも起業を支援していく姿勢が長期にわたって必要である。気軽に起業の相談

に乗る姿勢を美濃加茂市にも求めたい。

(二市連携 ICT 活游子育て支援事業)

- ・システムを維持していくための経費がかかるため、交付金によってやれた事業を今度どうしていくのかについては、大きな決意が必要となる。
- ・現場の保育士が楽になって、働き方の変化につながっていけると良い。
- ・今まで取り組んできたノウハウを今後どのようにしていくかを、現場の先生方や保育園の先生方からの聞き取りを含めて決めていただきたい。
- ・KPI について、子どもの変化を見逃さずに、ICT を使って効果が出るもの。例えば、データの蓄積によって保護者とのコミュニケーションが取れるようになったといった指標が良いのではないかと。今の指標ではなかなか効果がピンとこない。
- ・培ったノウハウを生かしながら、より使いやすいものや安価なものに形を変えるなどして、事業を継続していけるのではないかと。

(その他・人手不足)

- ・これまでは、金融機関の経験がある方をパートでも採用していたが、集まらないため、経験がなくても、頑張ってもらえれば戦力になるということで採用をしていく。
- ・県全体の求人倍率は2倍をずっと超えている。(全国3位) 求人が多いことは良いが、求職者が減っており、岐阜県にそれだけの労働力があるのか心配である。
- ・ブラジルの方は、働く姿勢が日本人とは違う。しっかり稼ぐという目的がはっきりしており、甘えもなく、覚える量を多く、企業にとっては大事な戦力である。
- ・ハローワークの求職者が減る中、外国人の求職者は増えている。希望しているのは派遣であり、年金や退職金のことは考えていない。加茂高校の定時制の生徒などを対象に、正社員として働くことのメリットを伝えている。

【事務局】

- ・女性活躍支援センターの開設を継続していく方向で工事を進めている。移転によって、今まで手の届かなかった対象にも支援が可能になる可能性がある。
- ・姫 Biz は交付金の対象期間が終了するが、継続してやっていく。
- ・ICT 活游子育て支援について、交付金が無くなってすぐにやめるということはない。

#### 4 対象事業に対する助言・提案

【アドバイザーからの意見】

(子育て)

子育ての最近のニーズが放課後デイや長期休暇の子育てに変化してきている。その部分への対応に徐々に取り組んでほしい。

(子育て・公共交通)

わざわざ、学校を通るルートをあい愛バスで設定しているのに、乗車してくれる高校生が

いない。高校生の料金を安くするまたは、学校にPRするなど対策して、よりあい愛バスを利用してもらわないともったいない。

(起業)

・一般の市民の感性でいいアイデアがあるのに、そういうものにどのように応じていけばよいか。起業したい方の相談ルートが確保できていれば安心である。

・なんとなく自分の好きなことを少し収入につなげていきたいと考えている女性はあるが、それが起業につながることに気づいていない。そのようないわゆる0→1ステージの方へのアピールがしっかりできれば、美濃加茂市はその先の支援が整っているのだから、起業支援としてさらに良いものができるのではないかな。

(若者)

美濃加茂市の若者は、地元が好きである。そのような感性を活かし、地元で仕事があれば、美濃加茂市に住むのではないかな。また、このような感性の形成には、小さい時からのふるさとに関する教育が役立っているのではないかな。